

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立鳳南小学校
校長 堀本 純平

中学校区におけるめざす子ども像

思いやりをもち、自分も他の人も大切に、認め合える人

令和7年度 重点目標

学校教育目標「自分の成長を感じる子どもの育成～豊かな心・主体的な学び・たくましく生きる力～」の実現に向け、主体的・協動的に学習に取り組み、学びに深い授業作りに努め、清掃活動・挨拶運動・読書活動の推進に努める。また運動面・文化面において様々なことに挑戦する機会を設定し、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を推進する。特に、中学校群の取組については、教育連携を密にした「つながる教育」を推進し、家庭・地域との連携を深め、「ひろがる教育」の充実を図る。

「確かな学び」の現状

令和3年度から昨年度まで国語科を中心にした「問題意識をもって学び、自ら考えを表現する子どもの育成」を研修テーマとし、問題意識をもって取り組む児童の育成をめざし、総合的な学力の育成に取り組み、子どもが考える授業を展開し、資質・能力の育成を図ることができた。今年度は「主体的に学ぶ子どもの育成～自ら学びを進め、粘り強く取り組む子ども～」を研修主題とし、総合的な学力の育成を図るとともに、研修テーマについての成果と課題をまとめて次年度につなげていきたい。

家庭学習では、各学年での漢字・計算だけでなく、具体的なチャレンジノートの実践方法を提示し、さらなる家庭学習の定着を図りたい。

ICTの活用を高めるために、ICT活用能力チェックリストをもとに低中高学年で系統性をもってスキルを身につけるとともに、授業づくりの展開を図り、ICTの利活用をめざす。

「豊かな心・健やかな体」の現状

昨年度は、人権教育・読書活動・学級経営・道徳教育に取り組んだ。その結果、「学校には、安心できる場所がある」や「安心ルールを用いた学級経営を通して、子どもたちが互いに認め合い、どの子も安心できる集団づくりがにに取り組む事ができたと思う」の設問において、肯定回答が目標数値を大きく上回った。一方で、「図書以外の時間以外で、進んで本を読みますか」の設問については、年度途中の調査結果よりポイントが増加したものの、目標数値を達成することはできなかった。集団づくりの研修を行ったことで肯定回答が増えたと考えるならば、読書活動についても研修を行うことで改善がみられると考える。

運動・健康面では、「体育の授業で十分に体を動かすことができた」と「朝食を食べることは大切だと思う」の設問に対し、目標数値を上回った。給食委員会の取り組みや運動量を確認した授業づくりが効果的に行っていたと考える。一方、「保健目標を意識している」の設問に対しては、目標数値を下回った。保健だよりの読み上げや掲示物等で子ども達に意識付けをしていく必要性が感じられる。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (9～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学力向上	子どもが考える授業を展開し、資質・能力の育成を図る	●総合的な学力の育成 (1) 校内授業研修を通じた各教科の資質・能力の育成のための授業づくりを推進 (2) 校内研修・自主研修を通して教員のスキルアップを図る (3) 主体的な子どもの育成を図る。	(1) 教職員アンケート (肯定評価 90%以上) (2) 教職員アンケート (肯定評価 80%以上) (3) 教職員アンケート 児童アンケート 【全学年】 ・難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しているか。 ・やると決めたことは最後までやりとげようとしているか。 <u>肯定評価 80%以上</u>	研究授業の実施 教師アンケート	2学期～年度末	○ (1) 肯定評価 89%とあと少しであるため、年度末に 90%を達成できるようにする。 (2) 肯定評価 100%であるため、引き続き推進していく。 (3) 肯定評価 95%であるため、引き続き推進していく。	○ (1) 肯定評価が 92%と校内授業研修を通じた授業づくりを意識し、推進することができた。 (2) 肯定評価が 99%と1%下がったが、全教職員が意識して目標を大きく上回り、取り組むことができた。 (3) 教職員の肯定評価は 92%と3%下がってしまったが、目標を大きく上回り、推進することができた。	○ 総合的な学力の育成・主体的に学ぶ子どもの育成を目標に、校内授業研修や自主研修の実施により、授業改善と教師力の向上に努め、成果を上げている。
			ICTの活用 (1) 情報モラル授業の実施 (2) 情報活用能力を高める授業づくり	(1) 実施できたか <u>肯定評価 95%以上</u> (2) 低学年：発表ノートで図や写真を入れて発表することができる 中学年：動画や写真を撮って発表ノートで伝えることができる 高学年：パワーポイントでスライドを作ることができる <u>肯定評価 80%以上</u>	児童アンケート	2学期～年度末	△ (1) →肯定評価 83%のため引き続き、児童の情報モラルに対する理解と意識を高めることができるよう職員全体で情報モラルの大切さを共有していく。 (2) 低学年 肯定評価 58% 中学年 肯定評価 81% 達成 高学年 肯定評価 78% →中学年は目標達成したが、低学年・高学年は未達成。低学年では操作支援をし、高学年は達成まで数%なので引き続き授業内で活用していく。	△ (1) 肯定評価93%と年度当初の目標にはわずかに届かなかったが、年間を通して計画に基づく学習活動は概ね実施できた。引き続き、職員間で情報モラル教育の重要性を共有し、全校で一貫した指導ができる体制づくりを強化していく必要がある。 (2) 低学年：肯定評価75% 未達成 中学年：肯定評価86% 達成 高学年：肯定評価83% 達成 低学年は肯定評価75%で、基本操作の習得に差があり未達成となった。 中学年は86%、高学年は83%で、年間の目標を達成した。来年度に向けて、学年に応じた操作支援と活用機会のさらなる充実を図っていく。	△ 年間を通して、どの学年でもICTを活用した授業づくりに取り組んでいる。目標値にはわずかに届かなかったが、引き続きICTの活用に取り組んでいきたい。
	学びの基礎力	家庭学習の充実	家庭学習の定着を図るようにする	「家庭学習の際、主体的に様々な学習に取り組むことができる」 <u>児童アンケート 80%以上</u>	児童アンケート	2学期～年度末	△ ・肯定意見が76%のため、学習方法が分かっていない児童もいると思われる。そのため、学習内容の例を昨年度同様に上げて、児童の困り感を減らし、様々な内容の学習を行えるようにしていく。	○ ・肯定意見が85%のため、引き続き家庭学習の定着のために推進を進めていく。また家庭学習で様々な内容を行えるよう推進していく。	○ 家庭学習の充実に取り組むことは大切なことである。引き続き、子どもたちが進んで取り組めるよう家庭学習の推進に努めていきたい。

豊かな心 健やかな体

豊かな心の育成	自分も他の人も大切にし、認め合える子どもの育成	児童一人ひとりの特性を理解し、日々人権教育を基盤とした授業づくりを行うことで、安心した気持ちで過ごせる環境づくりを行う	「学校には、安心できる居場所がある」 肯定評価 80%以上	児童アンケート	2学期～年度末	○ 肯定率 85%と目標を 5pt 上回った。またすべての学年において目標を上回った。全ての子どもの居場所づくりのため一人もひとりにはしない授業づくりに今後も取り組んでいく。	○ 肯定率 92%と目標を 12pt、中間評価を 7pt 上回った。人権教育研修テーマ「どの子ども安心できる居場所づくり」を基に 100%をめざし、一人もひとりにはしない授業づくりに今後も取り組んでいく。	○ すべての子どもにとって、学校が安心できる居場所となるよう、100%を目指し、学校環境を整えていただきたい。
		朝の読書活動や図書室の利用により、読書活動の推進をはかり、主体的な読み手を育てる	「図書の時間以外で、本を読みますか」 肯定評価 80%以上	児童アンケート	2学期～年度末	○ 肯定率 85%と学校全体では目標を 5pt 上回った。しかし、5年生 63.5%、6年生 62.9%と目標を下回っている。本を読む楽しさを味わわせることで底上げしていく必要がある。	△ 肯定率 79%と目標を 1pt 中間評価を 6pt 下回った。学習が忙しくなることで、機会が減ったことが考えられる。読みたいという気持ちを持ってもらうためにも、図書委員会の取り組みなどを中心に本と出合う機会を増やし、読む楽しさを味わわせていく。	△ 読書活動の推進のため、図書室の利用や図書ボランティアの方の読み聞かせなど、子どもたちが本と出合う環境づくりに努めていただきたい。
		★安心ルールを用いた学級経営を通して、子ども達が互いに認め合い、どの子ども安心できる集団づくりに取り組む	「安心ルールを用いた学級経営を通して、子ども達が互いに認め合い、どの子ども安心できる集団づくりに取り組む事ができたと思う」 肯定評価 90%以上	教師アンケート	2学期末	○ 肯定率 94%と目標を 4pt 上回った。子どもたちとともに作成した安心ルールをより大切に日々の指導を続けていく。	○ 肯定率 94%と目標を 4pt 上回った。子どもたちとともに作成した安心ルールを活用することで「どの子ども安心できる居場所づくり」を行うことができた。	○ 安心ルールの活用による学級経営により「どの子ども安心できる居場所づくり」を行うことができています。
		道徳や学級活動を通して、いじめは絶対にあってはならないという意識をもたせる取り組みを行う	「道徳や学級活動を通して、いじめは絶対にあってはならないという意識をもたせることができた。」 肯定評価 95%以上	児童アンケート	2学期～年度末	○ 肯定率 96%と目標を 1pt 上回った。しかし、1年生 92.1%、2年生 92.3%と目標を下回っている。すべての活動において他者と関わり学んでいく機会を多く設け、自分の世界だけでなく、他者の世界も大切にすることを育んでいく。	○ 肯定率 97%と目標を 2pt、中間評価を 1pt 上回った。学校生活は他者との関わりの中で行われている。他者の世界を大切にするためにも、意識だけではなく、事実においても 100%をめざせるよう指導を続けていく。	○ 道徳や学級活動を通して、いじめは絶対にあってはならないという意識をもたせることができ、子どもたちから 97%という高い肯定評価を得た。ぜひ 100%を目指していただきたい。
健やかな体の育成	運動の楽しさを感じ、自ら取り組む子の育成	エアロビ休憩・なわとび企画等の実施など、様々な運動に触れる機会を与える	「運動やスポーツをすることが好きですか」 肯定評価 85%以上	児童アンケート	学期ごと	△ 肯定評価84%と1ポイント下回っている。体育委員の企画で運動の楽しさを、なわとびカードで達成感を味わい、運動する喜びを感じてほしい。	○ 肯定評価87%と2ポイント上回っている。体育委員会の企画の運動すごろくによっても声をかけあって遊ぶ姿が見られた。今後も引き続きなわとびカードやエアロビ休憩で運動を楽しんでほしい。	○ 学校は様々な手立てをし、運動に親しむ子どもを育成している。
		十分な運動量を確保する授業づくりを行う	「体育の授業で、十分に体を動かすことができた。」 肯定評価 90%以上	児童アンケート	2学期～年度末	○ 肯定評価95%と5ポイント上回っている。引き続き、運動量を確保した授業づくりに取り組んでいきたい。	○ 肯定評価96%と6ポイント上回っている。学校全体で運動量を確保した授業づくりに加え、めあてを明確にした授業づくりに取り組めた。	○ 学校は運動量を確保した授業づくりと、めあてを明確にした授業づくりに取り組んでいる。
	心身の健康に興味をもち、生活に生かそうとする児童の育成	ほけんだより・掲示物・委員会活動等を通して、健康な学校生活を送れるよう取り組みを行う。	「保健目標を意識している」 肯定評価 85%以上	児童アンケート	2学期末	△ 「保健目標を意識している」肯定評価82%と3ポイント下回っている。啓発方法について検討し引き続き取り組みを行う。	△ 肯定評価 84%と 1 ポイント下回っているが、保健委員会の児童による啓発により学校全体の意識は高まっていると考えられる。今後も健康に関する取り組みを継続し、児童の健康意識向上に努めたい。	△ 今後も「心身の健康」に関する取り組みを継続していただきたい。
食べ物や食事に興味・関心をもつて食べることができる児童の育成	朝食を食べることの大切さを知り朝食を食べようと意識できるよう、給食や授業、給食だよりや食育だよりを通じた取り組みを行う。	「朝食を食べることは大切だと思ふ」 肯定評価 85%	児童アンケート	2学期～年度末	○ 児童アンケート結果は98%で、肯定評価80%を上回っている。今後も啓発取り組みを継続していく。	○ 児童アンケート結果は98%で、昨年より1%上回る結果となった。朝食を食べることの大切さを知り、朝食を食べようと意識できるように、今後も給食委員会での啓発活動や、食育での取り組みを継続していく。	○ 学校は、食育に取り組み、子どもたちの食べ物や食事に興味・関心を高めている。	

独自の課題	地域協働	学校情報を積極的に発信するとともに、ひろがる教育・つながる教育を推進する。	(1)学校ホームページ（HP）や各種副官等を活用し、教育活動の現状や成果の発信に努める (2)家庭・地域と連携・協働した学校づくりを推進する	学校ホームページを毎日更新する 肯定評価 80%	学校教育アンケート 実践報告	2学期末	積極的な情報発信に努めている。また、稲刈りや町探検、南っ子まつりなど、家庭・地域と連携した学習を進めている。	○ 学校教育アンケートの結果、88.1%の肯定回答を得た。また、各学年が地域と連携した学習を進めることができた。	○ ホームページ等の活用により、学校情報を積極的に発信している。今後も継続して取り組んでいきたい。

校長より（年度末）本校では、これまで「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った学習・指導方法改善の推進のため、今年度は「主体的に学ぶ子どもの育成～自ら学びを進め、粘り強く取り組む子～」を研究主題とし、主体的な学び、ICTの活用等の視点からの授業研究、個別最適な学びという視点からの授業研究を推進し、総合的な学力の育成に努めた。研究の成果として、これまでの全国学力・学習状況調査等における本校児童の平均正答率をみても良好な結果であることが認められる。質問紙から認められる課題であった「自己有用感の醸成」についても向上している。課題は「自分で学び方を考え、工夫すること」であり、今まさに求められている「主体的に学ぶ力」の育成である。次年度は把握した課題の解決のため、授業について一層の改善を図り、質の高い授業を児童に提供する。各授業では、ICTの活用や具体物の操作等、視覚に訴え、体験的に学ぶことのできる授業を展開し、こどもが自らの興味に基づき、見通しを持って、他者との協働や情報収集を通じ、考えを深める学習場面のある授業において「主体的・対話的な学び、深い学び」の確立と「個別最適な学び」の実現に取り組む。また、ICTの活用、体験的授業、地域協働による学習に取り組み、児童の豊かな心の教育と健康教育の充実に努める。

学校関係者評価者から（年度末）子どもたちの様子からも、深い学びが見られる。学校の研修体制が成果を上げているからだと感じられる。学校が努力されていることが伝わった。学力面で課題が見られる児童への対応も引き続き取り組んでほしい。また、学校が子どもの居場所となるよう、安心安全な学校づくり、心の教育の充実に引き続き取り組んでほしい。